



西南学院大学女子同窓会  
**西南ゆりの会**

vol.24

西南学院大学女子同窓会  
(西南ゆりの会)会報  
2017年4月1日発行  
〈発行人〉藤井 千佐子  
福岡市早良区西新6-2-92  
西南学院同窓会事務局内  
☎092-831-7048  
shouryokukan@seinan-yurinokai.jp

約38,000人の女子卒業生が活躍する“今”を紹介します！

特集

**西南ゆりの会 発足30周年記念**

歌人の松村由利子さんを迎えて ..... P.2~3

**30周年記念エッセー**

入賞作品の紹介 ..... P.4~5

**西南学院創立100周年リポート**

女子同窓生のメッセージ ..... P.6~9



2016年  
10月29日(土)  
開催

# 西南ゆりの会 30周年記念式典・祝賀会

at 松緑館

西南学院大学女子同窓会(西南ゆりの会)の発足30周年を祝う記念式典と祝賀会を、オーブンしたばかりの西南学院百年館(松緑館)で開きました。約140人が集い、30周年という大きな節目に立ち、西南ゆりの会のさらなる発展に力を尽くしていくことを確認しました。

記念式典では、30周年を記念して一般から募集したエッセーの表彰式があり、144点の応募作から最優秀賞に選ばれた福岡市の会社員高島つばさんら入賞・入選8人に表彰状と副賞が贈されました。記念講演では歌人の松村由利子さん(83期、文英)が「手渡されたことは『与謝野晶子とベアテ・ゴードン』と題して話しました。

祝賀会で乾杯の音頭を取ったのは、西南ゆりの会と長年にわたって交流を続けていた福岡大学同窓会有信会の川畠懿子理事長と九州大学女子卒業生の会「松の実会」の志村恭子会長のお二人でした。会場では、西南ゆりの会30年の歩みを紹介する動画の上映や、会報のバックナンバーの展示などもあり、出席者からは「学生時代を懐かしく思い出した」となどの声が上がっていました(当日の様子などは、西南ゆりの会の公式サイトで紹介しています)。

## 藤井千佐子西南ゆりの会会長の挨拶

この日を迎えることができました喜びをまず、3万7000人の西南学院大学女子同窓生とともに分かち合いたいと思います。

女子同窓会が発足した1986年は、男女雇用機会均等法の施行の年でもあります。女子同窓会発足30周年の大きな節目に立ち、広く外に目を向けますと女性の活躍が強く求められ、一方で母校・西南学院大学で女子学生の割合が6割に迫る勢いだと聞きました。一人でも多くの女子同窓生が交流し、エンパワーメント出来る場としてさまざまな活動を開催していきたいと願っています。

## K・J・シャフナー学長の挨拶

女子同窓会の名称「ゆりの会」の花は、賛美歌496番にも「うるわしの白百合」として登場します。花の特徴は、谷にも、山にもいろいろなところに自由に咲くこと。そして、一つの球根からたくさん花を咲かせ、美しい香りを漂わせます。それは、まさに才能を開花し、いろんなところで活躍する女子同窓生のようです。高く伸びていて、頭を下げるよう咲く姿もまたみなさんにふさわしい花だと思います。



①東京支部(左)、関西支部からも参加  
②～⑥会場は各テーブルごとにいろんな話に花が咲きました  
⑦他大学の女子同窓会からも来賓をお迎えしました

## 松村由利子さんの講演要旨

### 与謝野晶子とベアテ・ゴードンからのメッセージ

今回のテーマとして選んだのは、「一人の女性が残した言葉です。

一人目は、歌人の与謝野晶子。情熱的な恋歌の印象が強いのですが、多くの社会評論を書いたジャーナリストでもありました。さまざまにテーマで書かれた評論の中で、「私が特に感銘を受けたのは、「女性も男性と同じように働き、経済的に自立すべきである。男性もまた育児や家事を分担すべきだ」という主張です。「ワークライフバランス」などという言葉がなかった時代に、晶子は男女が共に働き、学問や芸術に時間を割くことのできる豊かな生き方を夢見ていました。男女雇用機会均等法が施行されて30年がたちましたが、晶子の理想とした社会は、まだまだ実現に遠いと思います。

二人目は、日本国憲法の草案づくりに関わった米国人女性、ベアテ・シリタ・ゴードンです。婚姻が両性の合意のみに基づいて成立することを、諱つた第24条など、女性の人権を尊重した画期的な憲法にするため尽力しました。その後、彼女は日本をはじめとするアジアの文化、芸術を欧米に伝える仕事に取り組みました。「平和への道は、人々が互いに理解し合うこと」というのが信条でした。

二人に共通するのは、見えないものを見る力だと思います。いま世界は難しい問題を多々抱えていますが、二人が掲げた理想を知ることで、よりよい方向を目指せるのではないかと考えています。

## 30周年関連事業

### 図書館にステンドグラスを寄贈

2017年4月に、新しい大学図書館が開館しました。西南ゆりの会では発足30周年記念と学院創立100周年を記念して「長く残るもの」を」という思いのもと、特製のステンドグラスを寄贈しました。

ステンドグラスは、横幅3メートルを超える大きなもので、エントランスの2か所を飾っています。ゆりの花のモチーフは決まっていましたが、最終的なデザインにたどり着くまでは、試行錯誤を繰り返しました。材料のガラスにもこだわり、均一ではないガラス厚、色むらによる自然なグラデーションと色彩が美しい仕上がりとなりました。

「ステンドグラスのある図書館」として地域の新たなランドマークになることを願っています。

### 記念のクリアファイルを作成

【お知らせ】  
当会発足20周年記念事業として2005年から取り組んできた、ゆり花壇の整備は2016年8月31日をもって終了いたしました。

レンガ造りの大学博物館を背景に真っ白い花が咲き誇る風景は、学園関係者だけでなく、西南ゆりの会にとつても大きな喜びでした。これまで、ありがとうございました。



▲美しい輝きを見せる大学図書館のステンドグラス



## プロフィール 松村由利子さん

1960年9月福岡県福岡市生まれ。福岡県立筑紫丘高等学校、西南学院大学文学部英文科卒。同大学院中退。毎日新聞社に入社し、千葉支局、生活家庭部、科学環境部などの記者をつとめる。2006年よりフリーランスに。2010年より沖縄県石垣島在住。児童書の翻訳も手がける。



新図書館に寄贈したステンドグラスのデザインをモチーフに、西南ゆりの会の発足30周年を記念するグッズとしてクリアファイル2種(A4サイズと三つ折りサイズ)を作成。記念式典の参加者にお配りしました。



当会発足20周年記念事業として2005年から取り組んできた、ゆり花壇の整備は2016年8月31日をもって終了いたしました。



### 受賞メッセージ

# 高島つばささん

このような賞を頂くことができ、大変ありがとうございます。あわただしく過ごす日常の中で自分の姿と考えを振り返り、それをありのまま、正直に書くこと。そのことがこんなにも自分を知る機会になるとは思いませんでした。

小さい頃に思い描いていたキャリアウーマンは、オフィスで働く涼しげな女性。その姿と今が異なっていたとしても。泥臭く、泣き笑い働く私のこの姿が、作品を読む誰かの小さな元気と笑顔になりますようにと、願っています。

**受賞者のみなさん** 記念エッセー入賞・入選者(敬称略)

高鳥つばさ	最優秀賞	私が踏み出す一歩	(福岡市中央区)
篠田洋子	優秀賞	「一升」だからこそ	(福岡県那珂川町)
小西寿美子	入選	三人目の子供	(長崎県佐世保市)
笹栗邦子	入選	加齢醜?	(福岡県太宰府市)
桑野綾子	入選	懐かしのコートドール	(福岡市南区)
〈当日欠席〉			
松尾満留美	優秀賞	「テーブルピアノ」	(福岡県八女市)
中村佑菜	入選	一日で変わった生活	(福岡市南区)
清水真衣	入選	心がある場所	(福岡市南区)

## 審査員からの一言

西南学院大学卒で文学界において活躍するみなさんにお願いしました。

## 松村由利子さん(歌人)

エッセーの面白みは、人間の面白みである。心ひかれて読んだ応募作品すべてに、生き生きとした人間像が描かれている。逆境の中ひたむきに働く人、深く内省する人、周囲の人との交わりを慈しむ人……どれも素晴らしい。よい作品には、作者の生きてきた時代が自ずと滲むことにも感じ入った。選考を終え、表現の巧拙は大した問題ではなく、むしろその人らしさの出た何か武骨なところに、読者は魅了されるのだと教わった気がしている。

〈松村さんのプロフィールは3ページ参照〉

## 中山智幸さん(作家)

エッセーとは記録ではなく、ほんの先の未来に向け小石を投げる行為のように思える。その小石は、自分という歴史の一部をつまんで、丸めて、形にしたもので、うまくすればこれから進む方角を示してくれる。ささやかな音で、その先が行き止まりではないと教えてくれる。寄せられた144篇をどれも楽しく読ませていただいた。自身の経験と思索を文章に仕立てたすべての人が、小さくとも、明るい音を聴いたのではないかと思う。

〈中山智幸さんプロフィール〉  
2005年に「さりぎわの歩き方」で第101回  
文學界新人賞を受賞し、作家としてデ  
ビュー。2008年に「空で歌う」で第138回  
芥川賞候補にノミネートされる。

## 鈴木比嵯子さん(作家)

この企画には女性であれば誰でも応募できるということで、いろんな立場の方々から、さまざまのテーマ・内容の原稿が集まった。大変楽しく読ませてもらひながら、皆さん、書くということに喜びを感じておられると思った。その中から数編を選ぶという作業は、正直、辛いものがあったが、務めは果さなければならない。その結果である。入選された方もされなかつた方も、これを契機に、書く喜びを継続、強めていって頂きたいと願っている。

（鈴木比嵯子さんプロフィール）  
（株）梓書院代表取締役会長、福岡市文学賞  
選考委員。1974年に九州芸術祭文学賞福  
岡地区優秀賞受賞。2007年に福岡市文学  
賞受賞。

# 「エッセー事業」最優秀賞決定

144作品の応募がありその中から「私が踏み出す一歩」が選ばれました。

西南学院大学女子同窓会(西南ゆりの会)は発足30周年を記念して「エッセー募集」事業を行いました。144作品の応募があり、最終的に8名が入賞・入選。最優秀賞として高鳥つばささん(会社員28歳・福岡市)が決定いたしました。入賞・入選作を掲載した冊子を作成し、記念式典の参加者にお配りしました。

**最優秀賞 高鳥つばさ**  
**私が踏み出す一歩**

「女が現場に入るもんじゃねえ」

建築現場で大工さんが発した一言に抱いた感情は、そうだよなあ、だつた。

福井県で十八歳までを過ごした私はいわゆる田舎者である。実家は農業を當んでおり、曾祖母まで入れれば八人家族。昔ながらの近所付き合いが残る、のどかで暖かな地域だつた。田舎はとにかく行事ことが多い。桜が舞う春は神社で神様に舞を奉納し、家の上棟となれば餅つきをし、また寒い冬も住人たちが神社に集まり、月一回の寄合い会議を行う。その全てに、村人全世帯が必ず関わるのである。そんな家族や地域の人々の姿を小さな頃から見て育つた私は、何の違和感もなく「村を仕切るのは男性」という文化を受け入れていた。神社で舞を舞うのは女の子だが最後のお参りは男の子のみ。家の上棟で屋根に上がれるのは男性だけ。寄合い参加者は年配の男性陣のみ。それは何の不思議もない、村の一風景であったのだ。

だからこそ、仕事で建築現場に伺つた際「なんで女が現場にきた」

大工さんに言われた一言に、私は妙に納得し、思わず頭を下げていただいたのだった。

「女なのに、すみません。あの、でも私住設メーカーの営業なんです。階段の寸法を測らせていただきたくて……」

しばらく黙る大工さん。そのままふいつと小さくなってしまった。ああ、もうダメだ、帰りたい。女が新築の住宅に立ち入るのはおこがましいなど、あれだけ母からの習つたの。

心にびびっと電流が流れるようだった。私は知らぬ間に、女性を二分していたようである。朝から晚まで無心に仕事をする人と、家庭や趣味の時間も大切にしながら仕事をする人。そして何気なくしかし確信を持つて私は前者を優位に、なんとなくエライと強調しながら話していたのだ。彼女の素直な質問は、私の差別心のど真ん中をついて迫つた。人生において何を大切にするか。それは人それぞれ違つていて当たり前だ。それは男性だから、女性だからと区別される必要はない。それなのに私は自分の勝手な価値観で、「女だからって急げてはいけない」「仕事しないで早く帰るのは女性の弱み」などと決め付けていた。そしてその心の声は、確実に彼女に届いていたのだ。私は自分の浅はかで小ささを価値観に気がついたと同時に、率直な質問をぶつけてくれた彼女を若干恨めしく……いや、しかし本当にありがたく思った。

最優秀賞 高鳥つばさ

「女が現場に入るもんじゃねえ」  
建築現場で大工さんが発した一言に抱いた  
感情は、そうだよなあ、だった。  
福井県で十八歳までを過ごした私はいわ

大工さんは嫌になつてしまつたに違ひない。  
心の思つて肩を落し玄関を出ようとした所  
と、何を思つたか大工さん、私のいふ玄関口  
まで戻つてきて「こゝ」言つた。  
「そのどんがつた靴を脱いで早くあがれ」  
涙がでるほど嬉しかつた」とを、私はいまだ  
に覚えてゐる。

「ですが、私は今までして働きたくあります甘ん。それは、ダメなことでしょうか」心にびびつと電流が流れるようだつた。私

# 西南学院創立100周年記念式典&合同同窓会&祝賀会 会場リポート

(福岡市国際会議場・マリンメッセ福岡)



今日は久しぶりに西南ユースホステル会で集まりました。現在は大分、北九州、福岡と離れて過ごしていますが、LINEで繋がっている仲間です。〈右から〉江上淳子さん(89期 児教)佐藤珠美さん(89期 文英)馬奈木薰さん(89期 外英)光美希さん(89期 国際)山元広美さん(89期 児教)



同期三人で参加しました。大学での交換留学の経験が、現在の仕事にも繋がっています。外国語研究のクラブ活動が一番の思い出です。これまで同期で交流があまりなかったのですが、100周年を機に会うことができてとても嬉しいです。〈右から〉河野美恵さん(84期 国際)福田浩子さん(84期 国際)落合香織さん(84期 国際)



今日は中村哲さんの記念講演会が楽しみで参加しましたが、とても感動しました。祝賀会の会場もとても華やかですね。ゆりの会のイベントも毎年楽しみにしています。近藤美奈子さん(96期 外仏)



ゼミの同期で参加しました。今も毎年ゼミ会が開催されていて大学とのつながりはとても深いです。記念式典に参加してみて、在学していた4年間は本当に幸せいっぱい時代だったと再認識しました。〈右から〉渋田直美さん(81期 商経)・高村恵理子さん(81期 商経)



西南の魅力といえば、やはり煉瓦のキャンパスのイメージですよね。卒業して3年ですが、今でも大学顔をだすとその風景に懐やされます。私達の世代は女子の学生も多いので、発信は大切ですね!! 北村佳恵さん(13期 法法)



体育会の83(やーさん)会という名で今でも3,4ヵ月に一度は飲み会をして集まっています。西南のスポーツ部はアツい仲間の集まりです。大野城市と筑紫野市から参加しました。同窓会役員もメンバーなので後輩たちの様子を聞く事が出来るのはとてもうれしい事です。〈右から〉前原美津子(児教)、中山沢美(児教)



皆、管弦楽団のOBです。15年前にOBにより設立された橋フィルに所属し、練習は大学で行っています。そのおかげで現役学生と交流もできますし、なにより今回の100周年記念演奏会にも3人一緒に関わることができました。〈右から〉石川夏子さん(80期 外英)、大園祐子さん(77期 文英)、大石知子さん(79期 外英)



大学時代はテニスサークル活動が楽しかったです。の中でも学祭で伝統の花売りをしたことが一番の思い出です。高校が女子高だったので、共学の大学生活は本当に楽しかったです。原田淳子さん(01期 商商)



大学時代の一番の思い出は、鹿児島へのゼミ旅行と油山研修です。今日の式典には、出来ればあの頃のゼミ生全員で集まりたかったと思いました。〈右から〉井口由美さん(74期 外英)妻島ひろみ(74期 外英)



大学時代は本当に自由な時間がたくさんあって、だからこそ友人たちとの絆が深りましたね。今日の記念式典・祝賀会には在学中には出会わなかった同世代の方達との出会いを楽しみに参加しました。森元里奈さん(13期 国際)



茶道部の活動を通して友人になり、かれこれ50年くらいの友情関係が続いています。100周年は生涯一度の経験なので、参加することを決めました。西南らしさといえば、やはり国際性。ぜひ、若いときから海外に行っていろいろ体験して欲しいですね。〈右から〉大樹則子さん(71期 文英)羽地むつ子さん(69期 短大・児教)



法学部中尾英俊ゼミ“ほうげん会”的メンバー2名と妹で参加しました。現在の西南学院大学は女子学生率が高く華やかなイメージ、これからもずっとこの西新の地で、地域に愛される大学であって欲しいです。〈右から〉本田恵子さん(79期 法法) 中野小夜子さん(77期 法法) 古屋美智子さん(77期 法法)



英文科で同じクラスになって以来、50年近く友情が続いています。それぞれ仕事、子育てが終わり、第二の人生を楽しんでいるところです。母校の100周年を見届けよう佐賀と熊本から駆け付けました。母校の歴史にさらなる輝きが増すことを願っています。〈右から〉西原直美さん(73期 文英)赤星節子さん(73期 文英)



財津和夫さんを楽しみに下関と広島から誘い合わせて参加しました。学生時代からずっとお付き合いが続いています。在学中はテニス同好会とジョギング愛好会に所属していましたが、現在もまだ活動しているのでしょうか?当時の西南はのんびりしていた記憶があります。〈右から〉中村裕美さん(85期 文英)小林広美さん(85期 外英)



会報誌やフェイスブックで知って参加しましたが、100周年記念式典のスケールの大きさに驚きました。今でも児童教育学科全体の同窓会がときどき開催されていて毎回楽しみにしています。〈右から〉祢寝由利香さん(84期 児教)山下ともこさん(84期 児教)



祝賀会で歌声を披露した西南学院ゴスペルクワイアを指導しています。当時はフォークメイツというグループに所属。空いている教室を探して外が暗くなるまで練習したことを覚えています。昔とはすっかり変わったキャンパスに驚きますが、変わらない松の木の緑を見ると嬉しくなります。沢れい子さん(72期 文英)



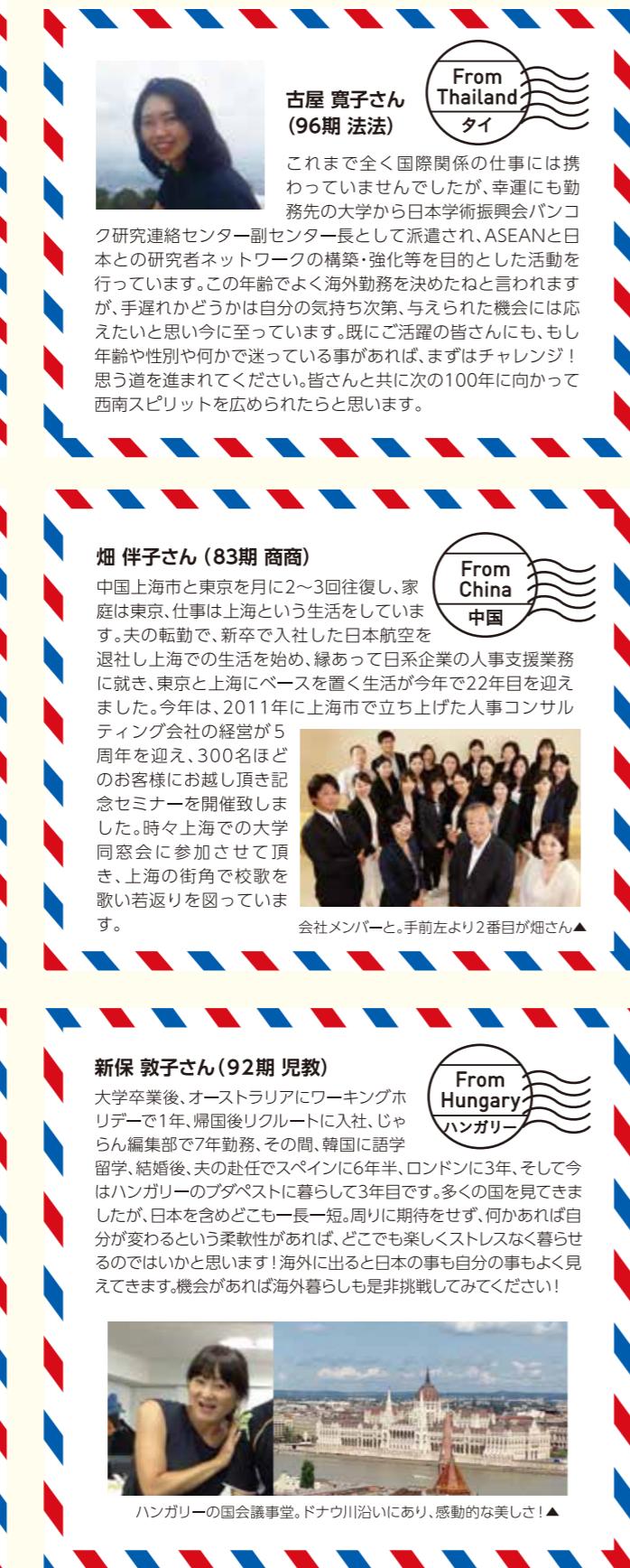
大学時代は学生運動の名残があり、キャンパス内にも立看板が結構見受けられました。私達の青春だったと懐かしく思い出します。〈右から〉山口秀子さん(73期 商商)紫富伸子さん(74期 短大・児教)



今日の式典で同級生と会えたらと思い参加しました。子供たちも西南の卒業生です。息子も同級生と一緒に張り切って式典に参加しています。松岡美穂さん(88期 国際)



## 海外OGからも100周年に あわせメッセージが届きました



東京、北九州、筑紫野市、福岡市とそれぞれ違った土地から出席しました。在学中はレクレーション研究会に所属していました。今も当時の仲間とはLINEなどを通じて繋がっていますが、なかなか集まることはできません。今回の100周年記念式典がいい機会となりました。(右から)吉永京子さん、宮原朋子さん、久富尚子さん、高須順子さん(いずれも80期 児教)



パワフルで元気いっぱいの山川先生の授業が楽しかったです。西南の授業で学んだことは、いまの生活にも活かせていると感じます。今もゴスペルのサークル活動を楽しんでいます。(右から)横山雪子さん(84期 児教)日高聖子さん(84期 児教)副島多美子さん(84期 児教)



現在、ゴスペルに月2回参加しています。今日は、ステージにも立つて同じ西南学院大学卒業の夫も見に来てくれました。ゴスペルはいろんな年代の方が参加していて楽しいですね。卒業後も、こうやって大学に関われるのも嬉しいです。野中睦美さん(88期 文英)



西南学院大学が繁栄しているのは喜ばしい事です。キリスト教精神に則って「世の光・地の壇」となる人材を育てていく事、もっとキリスト教精神を教え、貧しい人や障害のある方たちを受け入れていけるような学校になって欲しいと思います。佐多秀視子さん(14期 法法)



パネルの展示を見ていると100年の重みを感じました。特に建物が大きくなつたことに、発展を感じます。当時は、1クラスに女子が10名程度でしたが、若い世代は女性がたくさんいるのも新鮮でした!(右から)松本玲子さん(60期 文英)森部聰子さん(60期 文英)



みざわ寮で一緒に生活した同期と参加しました。友達が門限を破り、連帯責任で1週間外出禁止となつたことが思い出されます。当時、玄関前に仁王立ちしていた先生方のお気持ちは、自分が親となった今、とても理解できます。(右から)大原陽子さん(69期 文英)馬場嘉子さん(69期 文英)



在学当時の西南はまだ海が隣にあり、校風もゆったりとした思い出があります。中村先生のゼミで心理学を学びました。サークルは雑学研究会に所属していました。著名なOBにお目にかかるのを楽しみに参加しました。(右から)未永美穂さん、腹巻和子さん(84期 児教)



E.S.S.の先輩後輩で、東京と福岡から参列し、会場で卒業以来10年ぶりに偶然の再会を果たしました。サークル活動当時を振り返ると、フェリーでの遠征や合宿所で英語漬けの数日間を共にした日々は、今でも懐かしい思い出です。(右から)市野優佳さん(05期 文英)唐原久美子さん(07期 国際)



卓球部の友だちで、今も変わらぬ友情が続いているです。当時は女子も少なく、運動部で活躍するのは難しい時代でした。今は、卒業後は結婚だけではなく、グローバルに活躍できる時代。女性たちにも大いに社会で活躍して欲しいですね。(右から)栗原熙子さん(69期 文英)岩瀬爽子さん(69期 文英)



OBサークルの先輩に誘われ、西南中学卒業の夫と参加しました。会場に入って、式典のスケールの大きさにびっくりしました。スタッフのみなさんありがとうございました。岩澤ゆかりさん(82期 外英)

# 2016年度活動報告

西南ゆりの会と大学キャリアセンター就職課の共催でキャリア形成支援プログラム開催。約120人の学生が参加しました。パネリストは西村仁美さん(96期・外仏福岡県警察部)、吉野菜穂子さん(99期法法日経CNBCプロデューサー)、坂田美波さん(15期・英文西部ガス㈱北九州支社営業部都市開発グループ)の人。仕事のやりがいや、家事や育児との両立についてなど体験談を交えて広く語りました。閉会した後も熱心にパネリストに相談する学生の姿がとても印象的でした。

2016年5月30日—西南クロスプラザ

**女子大学生のための就職支援講座**

西南ゆりの会と大学キャリアセンター就職課の共催でキャリア形成支援プログラム開催。約120人の学生が参加しました。パネリストは西村仁美さん(96期・外仏福岡県警察部)、吉野菜穂子さん(99期法法日経CNBCプロデューサー)、坂田美波さん(15期・英文西部ガス㈱北九州支社営業部都市開発グループ)の人。仕事のやりがいや、家事や育児との両立についてなど体験談を交えて広く語りました。閉会した後も熱心にパネリストに相談する学生の姿がとても印象的でした。

2016年1月23日—西鉄グランドホテル

**にぎやかに新春のつどい**

百道会と合同で開催した新春のつどい2016。学院100周年の幕開けを祝おうと約2000名の同窓が集いました。G.W.バークレー院長の「AND一つながつていこう」という力強いメッセージで幕開けし、井浦正之氏(76期)が主催する懇親好いとう会(そなりすいとうかい)による獅子舞などでぎわいました。最後は全員で校歌を歌い華やかな100周年の年の幕開けとなりました。

## 2015年度事業報告

(2015年4月1日～2016年3月31日)

### 1 キャリア形成支援プログラム

(在学生を対象とした講演及び相談会)

日 時:2015年5月25日(月)  
会 場:西南クロスプラザ2階

### 2 西南ゆりの会総会

日 時:2015年6月12日(金)  
会 場:ホテル日航福岡

### 3 第39回西南ゆりの会サロン

日 時:2015年10月24日(土)  
会 場:西南クロスプラザ2階  
講 話:高良研一氏(西南学院事務局長)  
「これあなたも西南学院通に」

### 4 第15回新春のつどい(百道会と共催)

日 時:2016年1月23日(土)  
会 場:西鉄グランドホテル  
講 話:G.W.バークレー氏(西南学院院長)  
「西南学院100年の歩みとこれから」

### 5 西南学院大学女子同窓会会報の発行 (第22号、第23号)

### 6 ゆり花壇整備

### 7 支部総会などに参加

鹿児島支部、嘉飯桂支部、佐世保支部、東京支部、大牟田支部、関西支部、直鞍支部、柳川・大川・みやま支部、熊本県支部、朝倉支部、東海支部、長崎県支部、糸島支部、佐賀県支部、北九州支部、福岡市役所翠会、税理士西南会  
そのほか、西南学院高校、九州大学女子卒業生の会「松の実会」、福岡大学同窓会有信会レディースに出席しました。

## 2015年度決算報告

(2015年4月1日～2016年3月31日)

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額	差引増減	備考
繰 越 金	264,621	264,621	0	前年度よりの繰越
同窓会助成金	2,000,000	2,000,000	0	大学同窓会よりの助成金
講 演 会 費	600,000	822,000	222,000	新春のつどい会費及び御祝金
西南ゆりの会サロン費	100,000	170,000	70,000	西南ゆりの会サロン会費及び御祝金
雑 収 入	500,000	700,168	200,168	会報22号、23号の広告代及びホームページのバナー広告代等
収入の部合計	3,464,621	3,956,789	492,168	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額	差引増減	備考
講 演 会 費	850,000	1,139,783	289,783	キャリア形成支援講座開催費用 新春のつどい開催費用等
西南ゆりの会サロン費	180,000	185,425	5,425	西南ゆりの会サロン開催費用
企 画 活 動 費	30,000	36,580	6,580	支部会出席の為の名刺作成費等
印 刷 費	1,800,000	1,549,468	△250,532	会報22号、23号作成費等
広 報 費	80,000	17,640	△62,360	ホームページ関連費用
会 議 費	280,000	282,835	2,835	理事会及び部会開催費用の一部負担
通 信 費	30,000	7,102	△22,898	来賓、職域、支部等への案内状送付費用等
慶 弔 費	100,000	42,030	△57,970	他大学イベントへの出席費用、御祝花代等
備 品 費	100,000	71,280	△28,720	会旗作成費用
雑 費	14,621	8,974	△5,647	振込手数料、事務用品等
支出の部合計	3,464,621	3,341,117	△123,504	
繰 越 金	0	615,672	615,672	2016年度会計への繰越し金
合 計	3,464,621	3,956,789	492,168	

# 30周年を機にさらなる飛躍を

## 西南ゆりの会の方検討会が提言

西南学院大学女子同窓会(西南ゆりの会)は2016年、発足30周年を迎えました。これを機にさらなる飛躍を目指すため、「西南ゆりの会あり方検討会」を立ち上げ、さまざまな角度から議論を積み重ねてきました。その結果、以下のような提言がまとまりました。私たちの活動のバックボーンになるものです。実現の可能性も含めさらに検討が必要なテーマもありますが、実現可能なものから取り組み、多くの女子同窓生の期待にこたえていきたいと願っております。実施が決まった事業から公式ホームページ等でお知らせ致します。

2017年2月8日

西南学院大学女子同窓会  
会長 藤井千佐子 殿

西南学院大学女子同窓会あり方検討会  
座長 井原絹江

## 西南学院大学女子同窓会の今後の方について(提言)

1986年3月に発足した西南学院大学女子同窓会(西南ゆりの会)は、女子同窓生相互の交流、母校や地域、社会への貢献などを目的として活動を続け、なかでも就職支援講座や新春のつどいの開催など多くの実績を積み重ねネットワークを広げてきました。

本女子同窓会が30周年を迎えた現在、少子高齢化、グローバル社会の中で、地域社会が活力にあふれ、持続的に成長、発展していくためには、女性の視点や感性、発想を最大限に生かしていくことが大切です。2015年には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(女性活躍推進法)が制定され、女性の活躍への期待、関心が各分野で高まるとともに、大きく変化する国内外の経済社会情勢の中で、ますます女性の国際的活躍が求められています。

これまでの実績を踏まえながら、さらなる飛躍を目指して、今後のあり方について次のように提言します。

1 西南学院大学ではグローバルな世界で活躍している多くの女子同窓生を輩出しています。企業をはじめ福祉や文化など各分野において著しく活躍した女子同窓生を顕彰することを目的として「SEINAN Woman of the Year」(仮称)を創設することを期待します。



2 本会が発足した1986年は、男女雇用機会均等法が施行された年でした。以来、経済社会情勢の変化と共に女性を取り巻く環境は大きく変貌し、女性の生き方も多様になってきました。30周年記念事業として女性の様々な思いをエッセーとして公募した「エッセー大募集」事業は、大きな反響を呼び西南ゆりの会の価値を高めました。今後も継続していくことを期待します。



3 女子同窓生が関わるそれぞれの地域や各種団体で、本会の活動目的に沿った事業を企画実施する場合、事業補助ができるように「西南ゆりの会支援事業」(仮称)を創設することを期待します。



4 会報の拡充、SNSやHPの充実など広報活動の活性化を図り、社会における認知度をさらに高め、一人一人が西南学院に対する誇りと自信を高めていくことを期待します。また将来的には西南学院中学校・高等学校の女子同窓生をも対象として広げ、西南学院女子同窓会として、さらなる活動の推進を図ることを期待します。

大学同窓会の支部総会に参加した女子同窓生のみなさん

※あり方検討会のメンバーは西南ゆりの会の評議員で構成

### ●公式ホームページ リアルタイム 更新中!

<http://www.seinan-yurinokai.jp>  
イベントのお知らせや各支部総会の模様、活動報告などの詳細を掲載しております。こちらでは、会報誌の創刊準備号はじめバックナンバーもご覧いただけます。

### ●Facebookページ

<https://www.facebook.com/yurinokai.seinan>  
「いいね!」で更新情報を随時チェック可能!  
最新情報をぜひご覧くださいませ。